

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年3月7日

社会福祉法人森友会
たのしい森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 — 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)		修了者番号		担当分野							
		①	H1002063	☒ 福祉	☐ 経営						
		②	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営						
		③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営						
		④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営						
		⑤		☐ 福祉	☐ 経営						
		⑥		☐ 福祉	☐ 経営						
福祉サービス種別		認可保育所									
評価対象事業所名称		たのしい森保育園									
事業所連絡先		〒	187-0032								
		所在地	東京都小平市小川町1-3004-5								
		TEL	042-313-5960								
事業所代表者氏名		財津 耕一郎									
契約日	2024 年 7 月 1 日										
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年 11 月 18 日										
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 24 日										
自己評価の調査票配布日	2024 年 11 月 18 日										
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 24 日										
訪問調査日	2025 年 1 月 30 日										
評価合議日	2025 年 1 月 30 日										
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)		・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。									

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） (1) 「心身の調和的発達」を促す保育 すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 (2) 「基本的生活習慣」の育成を進める保育 すべての子どもが、無理なく自立の道を歩む。 (3) 「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 すべての子どもが、協力・共同の喜びを知る。 (4) 「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味・関心」を育てる保育 すべての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。 (5) 「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育 すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1) 職員に求めている人材像や役割 社会人として世の中の規範を守り、人には優しく常識的な行動をとると共に、保育士として子ども達に温かい心を持って丁寧に対応してもらいたい。 主任、リーダー等の上位職にある人に関しては立場を自覚して、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張って欲しい。 経験の浅い職員は少しでも先輩の職員に近づこうとする意識を持ち、不明な点は質問するなどして自己研鑽に励んでもらいたい。 (2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育園で預かる子ども達の「最善の利益のために」を常に考えて子ども達に接するようにする他、子ども達の自主性・自発性を促す事が出来る生活環境、遊びの環境、行事計画を行って欲しい。 職員は、各々が社会的責任を背負っている事を常に自覚し、平素からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を図ってもらいたい。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯55(在籍児童数61)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

61
55
55
41
74.5

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」58.5%・「満足」36.6%の計95.1%と高い値を得ており、設問別でも「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「整理整頓・清潔」など、全17問中14問で80～90%台の高い支持を得ている。
自由意見では「異年齢保育で子どもの主体性を尊重し、素敵なおこし・よかったところ等をいつも誉めてくれ、保護者への対応もよく、親子とも気にかけてくれる」「子どもにとって第二の家のように安心できる場になっており、異年齢保育だからこそ子どもたちが見てまねる、子ども同士で教え合う等、成長していく姿が見られ、子どもの気持ちに寄り添い、見守り、時にはしっかりと注意してくれる」「園内がいつもきれいに保たれ、異年齢との関わりや食事が充実していて、保護者の多忙にも優しい」「子どもの意思を尊重し、自主的に行動できるよう配慮され、園内は基本裸足で過ごせる点もよく、昼食やおやつも栄養バランスが考えられている」「先生が楽しそうで、子どもにもその気持ちが伝わって、よい環境づくりができています」などの声が寄せられている。
要望などとしては、保育や行事、職員の体制や安全管理、保護者の就労・負担への配慮に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	38	1	1	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が2.5%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見には「異年齢保育のおかげでやりたい！！」がどんどん「できる！！」になっている「異年齢保育のためお兄さんお姉さんたちから学ぶことが多い」「異年齢保育・作物作り・調理など、幅広い経験につながっていると思う」「制作や外遊び、とても助かっている」の4件の声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	1	0	1
「はい」が97.5%、「どちらともいえない」が2.5%となっている。 自由意見には「どこで何をしたいか？ やりたいか？」をいつも見て調整してもらっている「教具を定期的に替えてくれて助かっている」の2件の声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	39	1	0	1
「はい」が97.5%、「どちらともいえない」が2.5%となっている。 自由意見は5件で、「家だと食べないものも保育園だとおいしい！」と言っている「食事(離乳食)・おやつともに調整をきちんとしてもらえた」「手作りでいろいろな食材も使われていて素晴らしく、何より子どもがおいしく食べている」などのほか、メニュー・食材などについて、さらなる工夫を望む声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	31	6	3	1
「はい」が77.5%、「どちらともいえない」が15.0%、「いいえ」が7.5%となっており、「はい」の値は前回(2021年度・以下同、61.2%)から改善されている。 自由意見は6件で、「服や靴が泥だらけになっていると、楽しかったのだろうとほほえましい」のほか、戸外活動や行事のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	30	2	0	9
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見には「いつも柔軟な対応がありがたい」の1件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	22	14	3	2
「はい」が56.4%、「どちらともいえない」が35.9%、「いいえ」が7.7%となっている。 自由意見は8件で、「風邪や咳、鼻水の子が増え始めた時も教えてもらえている」「2階出入口で子どもたちが自由に動ける雰囲気はいいと思う」のほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、設備面等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	3	0	1
「はい」が92.5%、「どちらともいえない」が7.5%となっており、「はい」の値は前回(68.1%)から改善されている。 自由意見には「土曜日が多いので参加しやすいかと思う」の1件が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	6	0	1
「はい」が85.0%、「どちらともいえない」が15.0%となっており、「はい」の値は前回(69.4%)から改善されている。 自由意見は5件で、「引き渡し時に先生が忙しそうでもきちんと十分に話してくれるので安心だ」「いつも子どもに寄り添ってくれ安心して預けさせてもらっている」「日々の出来事や子どもの成長について話し一緒に喜んでくれてとても信頼していて、異動などで替わる職員もいれば長く見てくれている職員もいるのがありがたい」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	2	0	0
「はい」が95.1%、「どちらともいえない」が4.9%となっている。 自由意見には「季節に合わせた小物の装飾が子どもと会話するきっかけになっている」「夜も先生たちが部屋をきれいに、テーブルも動かして掃除してくれている」「いつもきれいだ」の3件が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	37	3	1	0
「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が7.3%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見には「子どもの相手もしやすそうで親近感もわくので私服で全然問題ない」「エプロン姿ではないのが個人的にすごくいい」と思い、個性も感じられてよい」の2件が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	2	1	0
「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が4.9%、「いいえ」が2.4%となっており、「はい」の値は前回(72.9%)から改善されている。自由意見には、「いつからどのようになったか、引き渡しの時に細かく教えてもらえている」「細かいことも話してくれてありがたい」の2件が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	5	0	5
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が13.9%となっており、「はい」の値は前回(56.1%)から顕著な改善が見られる。自由意見は2件で、「その時の状況を包み隠さず伝えてもらえるので(先生の対応も)信頼できている」のほか、子ども間のトラブル発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	39	2	0	0
「はい」が95.1%、「どちらともいえない」が4.9%となっており、「はい」の値は前回(84.0%)から改善傾向が見られる。自由意見には「ぐずってしまった時もその後どうだったか、子どもの様子も教えてもらっている」「とても思うほか、親として見習いたい対応がたくさんある」の2件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	36	2	0	3
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%となっており、「はい」の値は前回(84.1%)から改善傾向が見られる。自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	6	1	0
「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が14.6%、「いいえ」が2.4%となっており、「はい」の値は前回(64.0%)から改善されている。自由意見は5件で、「退園時に混み合っていない時は特に子どものことを教えてもらえてうれしい」「日々のやり取りや個人面談でしっかり説明してくれていると思う」のほか、子どもの日頃の生活や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる工夫を望む内容が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	4	1	5
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が2.8%となっており、「はい」の値は前回(69.8%)から改善されている。自由意見には、不満・要望等に対する傾聴姿勢について、さらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	4	2	19
「はい」が72.7%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が9.1%となっており、「はい」の値は前回(56.8%)から改善されている。自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	保育や子どもの育成において法人共通に目指すものを、保護者や職員に周知させている 保育理念とする「すべての子どもの最善の利益のために」のもとで、「誉める保育」「夢中になって遊べる環境」「異年齢保育」など、「好き」を見つけ、自ら取り組むことのできる主体性、自己肯定感や人と関わる力など、生涯の基礎を育むための保育の柱を、法人共通に掲げている。保護者にはこれらを、見学・入園時の説明のほか、公開保育や毎月の園・フロア便り等を通じた日々の保育の発信などにより、共通理解の獲得を図っている。職員には入職時とその後の法人の各種研修、園内の会議での話し合いや保育の計画作成が、周知や再理解の場となっている。 運営や保育に関する各種案件の検討・決定と、関係者の周知の仕組みを整えている 園長・主任が各フロアリーダー・サブリーダーと協力し、経営層として園の運営や保育を統括している。毎月2回程度開かれる各階のフロア会議で、直近の保育に関する実務的な検討や、子ども一人ひとりに関する考察と話し合いを行い、その共有や、園運営に関する種々の施策・方針の検討を、経営層によるリーダー・サブ会議や、常勤者などが集う職員会議で行う仕組みとしている。会議に参加しない職員には、議事録や各「フロアノート」等によって必要な情報を周知させ、保護者への各種の重要事項の伝達は、主にアプリでの配信により行っている。 各職員が主体性を発揮し、法人の目指す保育を体現できる組織づくりを目指している 子どものロールモデルとして、職員も自己肯定感を高く持ち、現場で発揮できる組織づくりに努めており、職員の育成・啓発においては指導的視点に偏ることなく、工夫や試行錯誤への称賛も伝えることを心がけている。また春先の職員会議では、「誉める」ことや、学び育つ権利の保障としての「怒る」、誉め、認めていることを子どもに伝え、愛され認められている実感を育む「拍手」などについて、主任が事例を交えつつ伝えている。これに象徴される、法人の保育の基盤となる考え方や手法に関する現場への啓発を、経営層が日々の会議で折々に行っている。		

2		事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
カテゴリー2			
サブカテゴリー1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
事業計画をはじめとする各期間の計画に、重点事業や各種業務、実施体制を明示している 年度の事業計画に、園及び組織の運営と保育全般、人材育成、食事・安全・保健衛生、保護者支援・施設整備などの各分野における「重点事業」と、今年度における地域との連携強化や職員の確保、マニュアル整備など、園固有の重点課題を定めている。また同計画中の保育その他の実務分野については、具体的な取組内容や目標・ねらい等を示す各計画を、年間及びそれ未満の各期間で作成し、必要な進捗管理のもとで実行している。事業計画にはこれらの実施の体制を示す、組織の指示系統や職位・職種ごとの職責の一覧なども併載されている。 多様な方法で保護者・職員の声や地域ニーズを把握し、課題抽出の参考としている 上記の各計画の参考となる、各種の情報の収集を行い、課題の把握に活かしている。保護者の意向を、保護者会や行事後のアンケート、日々の交流・面談などから、また職員の意向を、前述の各会議や園長との定例・随時の面談、日常の業務内外の会話などから把握している。地域内の子育てや教育・保育、「保活」の状況などは、入園前の見学で来園する未就園世帯の声から把握し、地域ニーズを知る手がかりとしている。また小平市の私立及び公私立の各保育所園長会、地域内の保育所・幼稚園・小学校の連絡会も、情報収集の機会となっている。 法人・園の中・長期的な方向性を踏まえ、事業環境の動向や園経営の状況を把握している 法人が内外の状況を踏まえた「最重点課題」と取組事項、目標水準や達成の時期を示す「中長期・短期事業計画」を策定しており、近隣の児童館や小学校との連携強化をはじめ、当園としての今後の中・長期的課題も認識されている。施設経営や保育・教育などに関する行政の各種政策・制度の動向、関連する業界内の種々の話題は、上記の市の園長会や自治体の各種通達、法人内の系列園園長会などから把握している。また園の予算の作成や収支・稼働率等の把握など、経営状況の管理は主に園長が担い、毎月の状況を法人や系列各園と共有している。		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
法人の保育者として守るべき規範・倫理について、啓発や確認の機会が設けられている 全職員が年4回、法人共通の「虐待防止アンケート」により、いわゆる不適切保育の防止の観点で、日頃の子どもへの言動を振り返っている。また入職時にも、子どもの人権・尊厳と主体性の尊重、守秘義務の厳守や身だしなみ・各種マナーなど、保育者としての規範・倫理や社会人としての基本心得に関する啓発がなされている。常勤者は法人共通の自己評価表により、一般層は「報・連・相」や生活習慣、規範意識や法人の保育における基本的な種々の所作、園長・副園長は管理者としての能力・姿勢等について、毎年度の省内省と園長との面談を行っている。 苦情を含む保護者の意向への対応や、家庭での虐待等の早期発見・防止に取り組んでいる 苦情解決制度を設け、掲示や入園時の説明等によって保護者に周知を図っている。また毎日の送迎時の交流や各家庭との面談、玄関に設置する意見箱などからも、苦情を含む保護者の意向の把握に努め、案件に応じ個別に傾聴・相談の席を設けるなど、適切な対応に取り組んでいる。家庭での虐待や育児不安等の発生に備え、法人共通のマニュアルを常備するとともに、行政機関との連携の仕組みを整えている。市の要保護児童対策地域協議会にも園長が出席し、伝えられた市内の虐待等の情報は必要に応じ、会議等で職員にも周知させている。 地域の一員として、情報発信や実習生等の受け入れ、関係者との連携等に取り組んでいる 園・法人の各種情報を、ホームページや小平市を通じて発信するほか、実習生やボランティアの受け入れも行っている。また市の公私立・私立の各保育所園長会や地域内の保・幼・小の連絡会、市の要保護児童対策地域協議会への出席を通じ、施設経営や保育・教育、虐待防止や家庭支援などに関する関係者間の連携に加わっている。地域の未就園世帯が入園前見学で来園した際は、求めがあれば育児相談等に答えており、子育て支援の機能強化を課題としている。また就学後の子どもの支援の継続を念頭に、児童館や小学校との連携も深めたいと考えている。		

カテゴリ－4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ－1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ－2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ－4の講評		
災害・不審者やSIDSなどの緊急事態への対策や、毎月の安全点検に取り組んでいる 消防署・警察署来園による心肺蘇生・AED訓練と不審者対策訓練、地域の病院と連携したアレルギー事故対応の訓練をそれぞれ毎年度設けるほか、不審者対策については敷地内の要所のカメラ監視も行っている。また毎月の防災訓練により、各種ケース・時間帯での発災時の対応や、保護者との子どもの引き渡しにおける連携を確認し、感染症と自然災害を想定したBCP(業務継続計画)を整備している。毎月の園庭・屋上及び各階の安全点検のほか、子どもの睡眠時の状態確認、夏場の戸外活動等の自粛など、SIDS・熱中症対策にも取り組んでいる。 内外の各種事例を、事故防止や安全に関する職員への啓発に活かす仕組みを設けている 保育中の子どものケガ等の事故は、発生後遅滞なく検診と原因・防止対策の検討を行い、記録の回覧や会議での報告により、現場への周知と注意喚起を行っている。またそれらの未遂事例はヒヤリハットとして収集し、概要や想定される事故、原因や対策を記録の回覧によって共有している。毎月の職員会議や各フロア会議では、それらの事例の報告の時間を設け、報道された業界内の事故を含め、種々のリスクについて看護師などによる啓発がなされている。法人が発信する系列各園の事例も、重要性に応じて回覧等によって周知を図り、現場に注意を促している。 各種情報の管理・利用に関する仕組みと環境を整備し、関係者への啓発もなされている 法人の各種規程や「個人情報管理マニュアル」、就業規則等に、各種情報の管理・利用に関する基本原則や実務上の遵守・禁止事項を定め、職員には入職時の研修などにより、それらの徹底を促し、実習生等には受け入れ時に守秘義務厳守の誓約を確認している。また重要書類の施錠管理や情報端末・ソフトウェア類のセキュリティ設定など、情報漏洩を防ぐための環境を整備し、法人内のデータベースによる職位・職位に応じた情報共有など、情報の利活用にも取り組んでいる。保護者には各種情報の利用目的などについて、入園時に説明と同意確認を行っている。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
職員の募集・採用と人事・労務管理について、事業者としての仕組みが整備されている 職員の募集・採用と人事について、法人内の各担当委員会が系列各園と連携して取組を行っている。人材の採用は、各種養成校・関連業者や法人サイトを通じた求人、各種SNSの活用や在職者への紹介の奨励など、多様な方法で行い、配属・異動は各園の状況をもとに、各人の意向やキャリア形成等も考慮して決定している。園内では各階の子どもの状況や、チームで保育を行ううえでの各人の関係性、能力・経験のバランス等を踏まえて体制を組んでいる。職員の就業状況の管理やストレスチェック、各種福利厚生など、法人共通の労働環境整備もなされている。 職員の成長・キャリア形成の道筋を定め、個別の育成と意欲の向上の仕組みを整えている 「職員のキャリアプランについて」に入職後のキャリア形成のイメージを図示し、別に保育職者の職位ごとの職責を一覧化している。また一般層と園長・副園長の各階層で、法人共通の自己評価表により、各階層で期待される能力・姿勢等に関する自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行っている。評価や目標達成の状況は、園長と各職員との面談によって共有され、必要な助言や支援に活かされるほか、同シートと共通の項目による上司評価を、登用・昇格などの人事の参考とすることで、各人の処遇や意欲の向上にもつなげている。 法人・園の各単位で職員の学びの充実を図り、保育の質や組織の同僚性を高めている 系列の各園や提携する他法人の園への訪問、系列他園からの保育者の来園により、法人の保育の柱とする「誉める」保育などの知見と技術を、視察と話し合いを通じて高める研修が設けられている。その他にも学識者を招いての全体研修や階層別の研修、指導者来園によるオペレッタの研鑽など、学びの場が多様に持たれている。園内でも各階・全体の会議で、経営層からの啓発や、保育や子どもに関する話し合いが随時なされ、先輩職員による新人育成の仕組みも設けられている。職員自己評価では組織の同僚性について、肯定的な声がさまざまに挙げられている。		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度の事業計画の「保育内容の充実・質の向上」の分野では、遊びや活動のコーナーの設定、一つの遊びから子どもの興味や関心を広げ、遊びの発展や深まりにつなげてゆく、保育者の多様な発想と多岐にわたる援助など、物的・人的両面の保育環境の整備を「重点事業」とした。また、その実践を保育者も楽しく意欲的に進めることで、子どもたちにも好影響を及ぼすことができるよう、各人の自発的な発想と試行錯誤の積み重ねも奨励することとした。 日々の保育提供において、体制上の事情などから現場の話し合いや情報共有の場の確保が課題となっており、子どもの姿やそれぞれの興味や意欲を保育者間で伝え合い、見守りや援助に活かすことが時に難しい場面もあり、相互の連携や各人の自発的な創意工夫の活性化を目指した。 日々の保育活動や行事全般において、子どもの意欲や興味・関心を企画に活かすことを旨として進めるとともに、保育者間の情報共有と連携の強化を目的に、職員の提案を活かして朝夕の申し送り用の書式を整備・運用した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 一連の取組の推進において、経営層が随時、保育実践や子どもへの援助・考察に関する助言を行うとともに、保育や行事の企画、保護者に園の保育や子どもの様子を伝える種々の発信・掲示物の内容等については、できる限り担当者の発想を尊重し、指導や指示を最小限にとどめることを意識した。 経営層は取組の成果として、各職員の主体性の発揮や、現場へのトライアンドエラーの風土の定着が図られつつあり、それぞれの職員の提案や工夫を実践に活かす取組が比較的日常化できているととらえている。今後の課題としては、子どもの発達段階への理解を組織全体で深め、長期的な育ちの見通しのもとで保育を発想し、活動や環境構成等に反映させる営みについて、さらに底上げを図りたいと考えている。 今年度も事業計画に同様の重点事業を設定するほか、子ども一人ひとりの姿の把握や必要な援助などについて、職員間のコミュニケーションをより密にすることも課題に定め、各階及び全体の会議を中心に、話し合いや経営層の啓発を通じた研鑽を図っている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画の「保護者支援」の分野では、当園の園児が主として就学する小平第十二小学校、上宿小学校等との実効的な連携のあり方について継続的に検討し、その実践を園児の小学校への円滑な接続に活かすとともに、保護者に対して面談や保護者会を通じ、就学に係る情報提供を行うことを「重点事業」とした。

これまでも園児の5歳児への進級とともに、地域内の保育所・幼稚園・小学校の連絡会への参画などを通じ、小学校との連携を持ってきたが、実態として園側からの小学校への情報提供が主となっていた。近年は文部科学省による「幼保小の架け橋プログラム」の推進を受け、同プログラムの具体的な運用が比較的喫緊の課題となってきたことから、小学校への働きかけに注力することとした。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

組織内の体制の事情に起因し、小学校との連携強化については取組の実施が難しかったが、園長から卒園児の通う小学校の担任教諭の方に働きかけ、懇親の場を設けるなどした。交流を通じ、保育所と小学校教育の現場のそれぞれの課題を、一定程度共有することができ、意見交換を継続することについても合意が得られた。また5歳児の各保護者には、面談や年度後半の保護者会などを通じ、就学に向けた情報提供に努めた。

今年度の事業計画にも同様の重点事業を設定し、取組を進めることとしている。訪問調査時点では昨年度同様に組織内の状況から、小学校への積極的なアプローチが困難な状況が続いているほか、教諭の方との個別の懇親・交流についても、先方の多忙その他の事情により、訪問調査時点では昨年度のような機会が持てておらず、引き続き課題と考えている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当	
サブカテゴリ-1の講評			
法人共通の保育の考え方や取組が、法人のホームページで発信されている 法人のホームページでは、「好きを見つけられる子へ」というメッセージに込められた、法人が大切にしている保育の考え方を動画と漫画で紹介するほか、保育理念・方針や、法人で大切にする「営める保育」や異年齢保育、子どもの主体性の尊重などを、写真を添えて紹介している。また子どもの育ちや保育者の思い、保育実践の具体的な内容を示したオリジナルの「コンセプトブック」や、法人が考える散歩の考え方や取組を絵本にした、「あのね、さんぽにいったらね」も閲覧可能となっている。また各園の自己評価表及び法人概要や財務状況も公開されている。 園に関連するさまざまな情報が、インターネットを通じて入園希望者に提供されている 園のページでは、所在地・連絡先・保育時間・定員などの園の概要、園へのアクセスマップのほか、0・1歳児と2歳以上児の1日の園での生活の流れと内容、年間の行事予定、避難場所などの情報が掲載されている。またブログで子どもの園での日々が紹介され、今年度は食育を中心に記事を制作し、調理保育の様子などを知ることができるようにしている。市のホームページには当園の定員や0歳児の保育開始年齢、開所及び延長保育の時間、園のサイトへのリンクなどが掲載されるほか、各園の定員別の利用人数と空き状況などが公開されている。 利用希望者の見学を受け入れ、園での生活や保育の特色を説明している 利用希望者の見学を受け入れている。電話やホームページで受け付けており、食事の様子を見られるよう平日の10時半以降を推奨しており、就業の状況などで、平日の見学が難しい場合には、日常の保育とは状況が異なることを伝え、土曜日などにも対応している。見学希望者は0歳・1歳児が大半を占めるため、説明の大部分は低年齢児の生活や持ち物などとなるが、2歳以上児の保育についても、活動を自発的に選ぶことができる環境や、異年齢保育、子どもの姿や気持ちを受容し、営めることを援助や関わりの基本としていることなどを説明している。			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園に際し保護者に説明会を実施して重要事項説明書を説明し、同意を確認している 新年度入園が決定した家庭を対象に、「入園のしおり(重要事項説明書)」と、保育開始に必要な子どもの発達や家庭状況に関する書類を送付し、新入園児説明会までの一読と必要書類への記入を依頼している。説明会ではプレゼンテーション資料を画面に投影しながら、施設の概要や保育内容、食事・延長保育・病気や薬・家庭との連絡・非常時の対応・虐待防止への措置などについて、園長が説明している。その後に行う個人面談終了後に、保育開始の同意や個人情報の利用に関する同意を、書面への署名により確認している。 面談と書類によって子どもや家庭の状況を把握し、職員間で情報を共有している 面談では保護者記入の書類によって、集団経験の有無・健康状態・発達状況のほか、食事・睡眠・着脱などの生活習慣や、保護者が園に伝えておきたいことなどの情報を把握している。また面談においては、聴き取る項目をまとめた「面談確認事項」を用いて、把握の漏れを防いでいる。健康面や食事面において個別の対応が必要となる場合には、看護師による聴き取りも実施している。入園面談後には、新入園時に関する情報を一覧にまとめ、職員間で共有しており、留意すべき事項については赤字で強調して視認性を高めるなどの工夫がなされている。 入園直後の子どもの負担や保護者の不安の軽減と、利用終了後の関係継続に努めている 入園直後の環境や生活リズムの変化による不安や負担を軽減できるよう、2週間を目安に徐々に保育時間を延ばし、体験を増やしてゆく「慣らし保育」を実施しており、子どもの状況や保護者の事情を踏まえ、期間や時間は柔軟に変更することとしている。保護者の不安を軽減できるように、子どもが遊べるようになった姿を伝えたり、写真を撮り玄関ホールに掲示したりするほか、質問しやすい雰囲気づくりに努めている。卒園児には、再訪の誘いを伝えるほか、園の連絡先を載せた暑中見舞いを送ったりするなど、サービス終了後の支援の継続に取り組んでいる。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評			
入園前の子ども・家庭の情報把握と在園中の子どもの成長過程の把握に努めている 入園の際に保護者が提出した書類や面談等での聴き取りから、家庭での子どもの育ちを確認するとともに、入園後は全園児で個々の成長発達を適宜記録し、成長・発達の状況を把握している。子どもの体調や健康などの保健面の状況については、毎日の視診や検温、嘱託医による定期健診によって確認し、予防接種の接種状況は保護者からの報告をもとに、履歴を記録している。日々の子どもの様子は、保育日誌に活動内容や子どもたちの姿等を記載するほか、家庭での様子は日々の保護者との対話やアプリ連絡帳、個人面談などから把握している。 全体的な計画をもとに長期・短期の計画を策定し、日々の実践へとつなげている 全体的な計画は法人共通のものを基本に、園の実情や環境等を踏まえて作成し、養護と教育の各領域を考慮して、年齢ごとに長期・短期の計画を子どもの姿や発達状況に合わせて作成している。具体的な保育活動を週案の中で表現し、日々の様子は保育日誌、発達や生活状況などは定期的に児童票に記録している。0～2歳児については個別の計画を作成し、子どもの姿からの当月のねらいや保育士の配慮などについて定め、個々の発達状況に応じた細やかな援助の実施に努めている。計画は周期ごとに振り返りを実施し、次につなげていくような仕組みを設けている。 職員間の情報共有と、子どもの姿や保育内容等を保護者に伝える仕組みを整えている 各フロア会議等、職員間の情報共有の仕組みを整え、園全体で共通認識のもと、子ども一人ひとりに寄り添った保育実践を行えるようにしている。保護者会では、生活や遊びを通じた現在の子どもの姿や、今後の育ってほしい子どもの姿、進級にあたっての生活様式の変化や見通し等を保護者に伝え、年長児では就学に向けての望ましい姿等も話題としている。子どもの様子は写真に保育者のコメントを添えた「ドキュメンテーション」や園便り・ブログで発信し、保育参加を実施するなど、さまざまな取組から保護者に保育内容や子どもの発達を伝えられている。			

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報や子どものプライバシーの保護、羞恥心への配慮に努めている 子どものプライバシー情報や個人情報の取り扱いに関しては、入園時の重要事項説明の際に、子どもの情報開示の内容を明らかにしたうえで同意を確認しており、入園後に情報を外部とやり取りする必要がある場合には、そのつど保護者の同意を確認する決まりとしている。子どもの羞恥心への配慮として、幼児のトイレは個別扉を設置するほか、乳児のおむつ替えはトイレ内で行うように環境を設定している。乳児・幼児の着替えでは外部の視線を遮る工夫に取り組み、着替えの手順を伝えるなど子ども自身が羞恥心を感じ取れるような声かけを心がけている。 日々の保育の中で、子ども一人ひとりの意欲や主体性の尊重に努めている ホームページには、「好きを見つけられる子へ」という、法人共通の保育の考え方を象徴するメッセージが掲載されている。当園でも好きなことをとことんやりたいという子どもたちの意欲を尊重し、主体性を育む保育実践に努め、自由に活動を選ぶことのできる時間を確保するほか、保育室内の教具は自由に使用可能とするなど、子どもが関心を寄せるものに主体的に取り組める環境を整えている。また食事に関しても、決められた時間内であれば自分の空腹のタイミングで食べることができるようにするほか、午睡も本人の意思を尊重して援助している。 虐待防止に向けた連絡・通報の体制を整え、家庭での育児不安の早期発見に努めている 系列園共通のマニュアル集には、虐待防止に関する項目が定められており、関係行政機関との連絡・連携の体制を整えるとともに、行政が主導する連絡協議会にも参加している。不適切な保育を防止できるよう、定期的に「虐待防止チェックシート」を用いた自己チェックを実施し、自省・自戒を促すほか、虐待予防に関する外部研修に職員を派遣しており、研修報告によって職員間で知見を共有している。家庭での育児不安を早期に発見できるよう、送迎時の保護者の対応や様子のほか、子どもの身体や荷物などの情報を職員間で共有できるよう努めている。			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
各種マニュアルに業務の標準を示し、改正の仕組みを整えている 系列園共通のマニュアル集には、職員の心得・保育マニュアル・虐待防止・衛生管理・感染症対策・アレルギー対応などに関する、守るべき事項や留意事項、手順等が掲載されている。同マニュアル集は事務室内に常置され、いつでも参照できるようになっている。これらは法人本部によって行政の通知やガイドラインの変更、事故報道のほか、系列園の園長で構成する「保育の質向上委員会」「広報委員会」などの委員会から寄せられた意見も参考に、改正が行われる仕組みとしており、改訂部分に関する情報は各園に通知されている。	
研修や改善活動による、保育や業務の質と、職員の能力の向上の取組が行われている 職員会議では保育内容について話し合う時間を設けており、5月の連休明けには、保育実践の基軸とする「誉める」ことに関する考え方に 関する資料を配付して再周知を図るほか、系列他園の職員による巡回・観察で得られた助言や気づきを共有したり、今年度の行事の内容 を踏まえて、次年度の行事の見直しを検討したりしている。また職員小集団による、広報・安全・環境などの委員会を設けて、園内の諸課 題の解決と改善に取り組んでいる。委員会の取組の成果は職員会議で発表し、職員間で意見を伝え合い、改善活動の参考としている。	
安全な保育提供に向けて情報を共有し、実技研修を行っている 報道事例や行政から通達を受けた事項の内容の周知が図られており、今年度は誤嚥事故の事例から、子どもの嚥下の仕組みや介助時 の留意点の確認を行うほか、ヒヤリハット・アクシデント・インシデントの事例も共有して、再発の防止に取り組んでいる。また即時対応が必要 となる業務を確実・安全に行えるよう、嘔吐処理やアナフィラキシー補助剤の使い方、心配蘇生術、避難訓練などの実技研修を実施す るほか、適宜確認を必要となる留意点については、資料やチェックリストを作成して該当場所に用意し、必要の際に担当者が活用できるよ うにしている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
子ども一人ひとりの全体像の把握と、子どもが主体的に取り組める環境構成に努めている 子どもの発達の状況を発達指標を用いて確認するとともに、日々の気づきや子どもの言動・行動を職員間で話し合い、連絡帳や保護者との対話を参考にしながら、子どもたちが主体的に過ごせる環境構成に努めている。発達段階や興味に応じた教具を子どもが出し入れできる棚に用意し、自分で遊びを選び、繰り返し遊べるよう環境を整えている。棚には教具の写真を貼り、子どもが遊びの見通しをつけ、片づけも遊びの一つとして感じ取り組めるように、保育者は言葉で促すことなく、子どもが自ら行動する姿を見守る姿勢を、日々の実践の基本に置いている。 異年齢での育ち合いの支援や、子どもの主体性を尊重した環境づくりに取り組んでいる 0・1歳児、2歳以上児それぞれがワンフロアの空間で過ごし、年齢差を考慮した教具を整えながらも、活動に制限は加えずに、子どもの主体性を尊重した保育に取り組んでいる。各フロアや屋上、園庭は子どもの意思に応じた選択ができるよう、乳児・幼児の職員が連携を図り、子どもが好きな場所や教具を活用して安全かつ一人ひとりの満足感を抱ける保育を展開している。幼児の部屋では小グループでのカードゲームなども用意し、年齢差のある子どもも年上児の姿を見て、遊びを学びながらルールを身につけるなどの関わり合いを持てるように配慮している。 配慮が必要な子どもに寄り添った支援や、子ども間のトラブルへの対応に取り組んでいる 配慮が必要な子どもには集団の中で成長し合えるよう、子どもの意思を尊重しながら援助し、場面によっては見守ることで、一人ひとりに寄り添った関わりに努めている。定期的に関係機関に支援についての助言を仰いだり、子どもの姿を保護者に伝えて家庭と連携を図りながら援助に取り組んでいる。子ども同士のトラブル対応では、幼児は当事者同士の話し合いを大切にしており、見守ったり言葉を添えたりして、自分の気持ちを伝えるだけでなく、相手の話を聞くことの大切さを知る機会となるよう、援助に配慮している。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

家庭と園で、子どもの健康状態の確認や活動の様子を伝え合い、共有を図っている

登園時には各家庭とコミュニケーションを図り、家庭での子どもの様子を聴くとともに、健康観察を行い、気になることがあれば確認をして「受入受渡連絡表」に記録をしている。降園時には会話のほか、乳児はアプリ連絡帳で、幼児は今日の活動として「ドキュメンテーション」を配信や玄関への掲示によって、子どもの様子を保護者に伝えている。乳児のアプリ連絡帳は、食事・睡眠・排せつや、家庭・園での様子を記入する形式となっており、保育者は担当に関わりなく共有することで、フロア全体で子どもの姿や成長の過程を把握できるようにしている。

一人ひとりの発達状況や意欲を把握して、生活習慣の自立へと導けるように配慮している

子どもの発達状態に応じて、食事・排せつ・着脱などの基本的な生活習慣が身につくように支援している。職員は子どもの姿を共有し、一人ひとりに応じた言葉かけや生活の支援を繰り返し、食事や排せつ、午睡や衛生の大切さを伝え、楽しく食べることや気持ちよく過ごすことを感じ取れるように配慮している。排せつは一人ひとりの子どもの興味や時間的な間隔、子どもの排せつの感覚などを保育者が見計らい、無理強いしないように声をかけ、まずは子どもの意欲を一番に尊重し、家庭とも連携を図りながら進めていけるように心がけている。

個々の欲求に応じた水分補給や、生活リズム・発達に応じた睡眠の支援に配慮している

異年齢児の関わりの中から、まねてみるという行動が、自ら学び習得する力を育むことに重視している。自分のことは自分で行えるような環境を整えて見守り、できた時には皆で誉める言葉をかけ、笑顔の表情を送るなど、保育者は援助に努めている。休息は子どもの発達や体力を踏まえて、個々の必要に応じるように配慮している。一斉に午睡時間を探り入れるのではなく、個々の子どものタイミングに応じて休息を取ることであり、静かな環境を必要とする幼児の子どもは乳児フロアで眠るなど、子どもの欲求に応じた環境の設定も心がけている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当

評価項目3の講評

子どもが自発的に遊びに取り組める環境を整え、興味が発展する活動を展開している

子どもが自発的に遊びを選び、好きなことに取り組めるように、子どもの興味や遊びの方向性を職員間で話し合い、教具などの環境の見直しを保育者間で随時行っている。日々の活動では、子どもの行動や言動から発する興味・やりたいことから発展する活動を広げ、子どもが見たこと・感じたことに共感しながら多様な活動に展開している。子どもが遊びに集中している場合には見守り、遊びを見つけれなかったり援助を求めている場合には、一緒に遊びを探したり、助言や提案をするよう努め、遊びのきっかけづくりにつながるように配慮している。

子どもからの発信を受容した支援に取り組み、身体表現を楽しみながら感性を養っている

乳児は表情や動作、視線などの子どもからの発信を応答的な言葉で受けとめて援助している。また併せて子どもに保育者が言葉をかけていくことで、信頼関係を構築し、徐々に言葉の獲得につなげている。5歳児は集団活動として、保育者からの提案を聴き、子どもたちの中から話したいことなどについて意見を出し合ったりする機会を設け、共感性や協調性を養うとともに、自己を発揮する場ともなっている。オペレッタ(音楽表現劇)にも取り組んでおり、ピアノの音に合わせて身体表現を楽しみ、表現力や語彙力、音楽に関する感性を養う活動を設けている。

さまざまな道具を活用して創作への意欲を高め、目的に応じた戸外活動に取り組んでいる

室内では自由画・塗り絵・粘土・描画などの活動を子どもが自由に取り組んでいる。マーカー・テープ・廃材などのさまざまな素材やはさみ・糊などの道具を準備し、子どもたちがイメージしたものを思い思いに形にしていくなかで活動も展開している。季節や目的に応じて散歩に出かけて身近な自然に触れ、身体を動かして遊ぶ機会を設けるほか、公共交通機関を使用したり、遠足としていつもと違った体験ができるよう工夫したりしている。訪問調査時には廊下で大縄跳びのチャレンジ記録が掲示され、子どもたちが意欲を持って積極的に活動している姿がうかがえた。

4 評価項目4		
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
子どもの主体的な活動を保障し、日々の活動からつなげた行事に取り組んでいる 行事は子どもの主体的な活動を保障するため、取組方や内容について検討を重ねている。行事を特別な1日にとらずに、日々の保育とのつながりや行事までの過程を大切に、子どもたちの今の姿を伝えるように配慮している。オペレッタ(音楽表現劇)を披露する「フェスティバル」では、親しみのある絵本の内容を題材とすることで、絵本の中の世界観を日頃の保育の環境や遊びの活動に採り入れている。「大きなかぶ」に取り組む2歳児は、畑でかぶを育て、場面と重なる活動を経験することで、子どもたちのイメージや楽しさをより高めるようにしている。 「もりんびっく」「お楽しみ保育」等、さまざまな行事を採り入れている 今年度の「もりんびっく(運動会)」は「みんながヒーロー」をテーマに、子どもが得意なポーズで決めた写真を会場に飾り、個々の創意工夫でペイントしたTシャツを着てダンスやリレー、サーキットなどの競技に取り組むなど、子ども一人ひとりが主役となるよう企画している。5歳児の「お楽しみ保育」では、同年齢児で過ごす時間の中で、どのように過ごすのかを子どもたち自身が話し合い、内容を構築している。その後につなげるフェスティバルの題材を取り込んだり、買い物から調理まで経験するカレー作りなど、仲間と協力して楽しむ活動となっている。 子どもは季節感を味わう行事を楽しみ、保護者にもその内容や意図を周知している 行事は季節の節目となり日々の保育を彩るものとして、子どもが主体的に取り組む過程を通じ、作り上げる喜びや友達と協力する楽しさを感じ、園での生活をより豊かにしていくことを大切に設定している。秋祭りは神輿や盆踊り、5歳児が店番をする各模擬店のコーナーを経験している。節分・餅つき・お正月遊びなど季節を象徴する内容や、関連する遊びを年齢に合わせて楽しめるように配慮している。保護者には年度当初に年間行事予定表を配信・配付し、行事の様子は日々の「ドキュメンテーション」や便りを通じて内容や意図の周知を図っている。		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当
評価項目5の講評		
長時間を過ごす子どもたちの気持ちが安定する環境の設定や援助を心がけている 子どもが安定した気持ちで生活をするために、一人ひとりの子どもが主体的に過ごせるように配慮している。子どもの生活リズムや遊びのこだわりを把握し、個々の遊びの空間や時間を保障することに努めている。保育者は子どもの行動を見守り、過度に声かけをすることなく、さりげない言葉や表情で一人ひとりを受容する関わりを心がけている。また保育時間が長くなることによる子どもの心身の疲労や負担を考え、登園時の視診・検温などの健康観察のほか、適宜の水分補給や体調・体力に応じた休息の確保などにも配慮する環境を設けている。 延長を利用する子どもが寂しさを感じずに過ごせるよう、配慮や環境の工夫に努めている 早朝・夕方は乳幼児合同で保育を実施し、子どもの人数に考慮して無理なく過ごせるように配慮している。延長保育では、保育利用時間によって補食・夕食を準備し、お迎えの時間まで落ち着いて過ごせる環境を設けている。保育時間が長くなる子どもたちの情緒面への配慮として、子どもの降園が続き、保護者の帰りを待つうちに寂しくなってしまう姿が見える時には、保育者がスキンシップを持つなど、子どもが安心するように関わっている。遅番保育士への引き継ぎでは、その日の子どもたちの様子や必要な情報を共有し、保護者への周知を図っている。		

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく意欲的に食べる食事の提供に向け、さまざまな工夫を採り入れている

食事は、一人ひとりの食べたいタイミングでテーブルにつき、準備が整った子どもから名前を呼び自ら配膳台に向かえるように配慮している。嗜好や食欲などに応じて盛りつけることにより、無理なく意欲的に食事を摂れるように工夫している。幼児は食事をトレーに載せてテーブルまで運んでおり、食具は衛生面に考慮して職員が渡している。献立は和食を中心に洋・中華といった多様なメニューで構成し、子どもがさまざまな味覚を体験できるよう工夫している。また毎月19日は「食育の日」として、郷土料理や行事食の提供を採り入れている。

アレルギー食や離乳食など、個々に配慮した食事の提供に努めている

食物アレルギーへの対応が必要な場合、面談により状況を把握し、毎月保護者に献立を確認している。提供時には専用のトレーや食札を用いるほか、着座の位置を工夫するなど、誤食の防止に努めている。離乳食は保護者と食材表を用いて経験食材を確認し、咀嚼・嚥下の状況を踏まえながら段階を決めて進めている。配膳台にはアレルギー児や離乳食児の氏名や除去内容、離乳形態を記し、誤配防止にも努めている。乳児・幼児ともに保育者も食事を一緒にすることで大人の所作が食事マナーの手本となり、おいしさを共有する中で子どもの食欲増進も図っている。

子どもが体験を通じて食への意欲や関心を持てるよう、さまざまな取組を実施している

年間を通して野菜を栽培しており、子どもたちが収穫を期待しながら水やりや観察をするほか、うまく育たない体験を通じて、栽培の難しさや食材のありがたさを学んだり、失敗の原因を考えたりしている。育てた野菜の調理方法を子どもたちと話し合っ決めて、食材に触れて手触りを感じ取り、匂いをかぐなど、食を身近に感じることができる食育活動に取り組んでいる。栄養士が年間食育計画に基づき活動を進め、年齢により内容は異なるが、担任と連携を図り、野菜の皮剥きやクッキングなどの幅広い食育を採り入れる仕組みを設けている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
評価項目7の講評		
家庭での子どもの保健に資する情報を、さまざまに保護者へ提供している 入園時には資料をもとに子どもの健康管理や感染症の対応、SIDSの留意点などを保護者に説明している。保健便りには、保健衛生を維持・向上させるための、爪の長さや予防接種後の登園の自粛などの保護者への依頼・協力事項を掲載するほか、子どもに対して実施した保健指導の内容、健康・身体・安全などに関する知識事項や健康維持のためのポイントなど、家庭での子どもの保健の向上に資する情報を掲載している。園内で感染症が発症した場合には、発生状況のほか、感染症の特徴や予防法などを保護者に伝え、注意を呼びかけている。 子どもの健康維持に向けた援助・配慮に努め、嘱託医との連携も図られている 看護師は保育室を巡回し、元気がなかったり、疲れが出ている・疲れているなどの情報が保護者から寄せられている場合には、頻回に状態を確認し、体調の急変に備えている。水分補給を定期的に促すほか、幼児クラスには、いつでも水分を摂取できるよう水差しを用意し、発汗時や汚れた時の着替え、猛暑時の外出の自粛、睡眠時の呼吸や体勢の確認など、子どもが健康的に過ごすためのさまざまな対策を講じている。また定期的な健康診断・歯科健診が行われるほか、感染症に関する情報提供や相談に応じてもらうなど、医師との連携も図られている。 子どもが自分の健康や安全を守るための保健教育・安全指導が行われている 手洗いや咳エチケット、歯磨き等の保健指導が行われている。手順を伝えるだけでなく、必要な場面や意味についても教えるほか、自発的に行えるよう、声かけや手順を示すイラストの掲示などを行っている。はさみなど危険なものを使う場合には、子どもの発達段階を踏まえつつ、使い方や使用上の注意を伝える。戸外活動の際には、交通ルールや公園での危険などを伝えて注意を促し、避難訓練では自分の身を守るための姿勢や行動について教えるなど、子どもが危険を感じたり、自分の身を自分で守る力を身につけられるような援助や指導にも努めている。		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

子どもの日常の姿や成長を伝え合う機会をさまざまに設けている

子どもの日常の姿や成長を伝え合う機会をさまざまに設けている。入園時に実施する個人面談では、書類や聴き取りを通じて、子どもの成長や体質等を把握し、入園後も日々の送迎時の対話やICT化した連絡帳のやり取りのほか、毎年度実施の個人面談において、個々の発達や生活状況を伝え合っている。また毎日の活動を「今日の活動」として、写真にコメントを付して配信したり、園内各所に子どもの作品を掲示したりするほか、「もりんびつく」や「フェスティバル」等の保護者参加の行事、保護者会・公開保育も、子どもの成長を伝える機会となっている。

保護者同士の交流の場の提供や、保護者との信頼関係の構築に努めている

保護者同士が交流する機会として、保護者会は年齢別で実施し、自己紹介のほか、話し合いの時間を設けており、育児に関する悩みや関心事などをテーマに懇談を楽しめるようにしている。また上述のもりんびつくやフェスティバルなど、保護者参加の行事も、保護者同士の関わりのきっかけとなっている。保護者と職員の信頼関係が深まるよう、保護者に伝えるべき情報や保護者から依頼を受けたこと、質問などの情報を職員間で共有し、組織としての方向性を確認してから丁寧に対応することを心がけ、対話の際には、傾聴と受容や共感に努めている。

子育ての参考となる情報を保護者に提供している

保護者会は年2回実施しており、年度の前半5月に実施する回では、子どもの姿を伝えるほか、保護者からの質問に回答し、行事の考え方や進め方などについて説明しており、年度後半の年明けに実施する回では、1年の成長を振り返っている。また園便りには主任保育士によるコラムが掲載されており、子どもの成長や日々の保育、行事のほか、保育の考え方などをテーマとしており、今年度は後ろから抱っこしないことの意味や、子どもがやりたいことを選ぶことのできる環境構成などに関する、園と法人の基本的な考えや思いを伝えている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評		
地域資源を活用したさまざまな体験や、職員以外の人と関わりの機会を設けている 地域の方の協力者の助言のもとで、四季折々の野菜の栽培に取り組んだり、介護施設との交流では、年長児が「フェスティバル」で行ったオペレッタを披露し、喜んでもらったりするほか、商店に買い物に出かけ、店員とのやり取りを体験している。そのほか、公共交通機関を用いて遠足に出かけるほか、外国人講師による英語のプログラムを採り入れ、実習生を受け入れることで、一定期間子どもたちとのふれ合いが持たれている。これらの取組は子どもたちがさまざまな体験をするだけでなく、職員以外の人と関わる機会にもなっている。 地域資源を活用した取組を通じて、子どもたちがさまざまな体験をしている 園周辺の玉川上水沿いの木立や公園などを活用した活動が行われ、四季折々の草木の変化や自然現象に触れ、虫を探したり、鳥などの小動物を観察したりするなど、さまざまな自然体験の機会となっており、子どもたちの好奇心や季節感を育んでいる。誕生児は誕生日当日に保育者とともに花屋へ出かけて、花を購入している。子どもたちには、保育者と誕生児だけで出かける特別感がもたらされるほか、好きな花を選べること、さらに店員からも祝福の声をかけてもらうことが、自分を大切にしてもらえているという実感につながっている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	さまざまな機会や媒体を通じて、子どもの様子や成長の姿を保護者に伝えている	
内容①	保護者との信頼関係・相互理解を深められるよう、さまざまな機会や媒体を通じて、子どもの様子や成長の姿を保護者に伝えている。送迎時の対話や連絡帳のやり取りのほか、個人面談等において子どもの様子や成長を伝えるほか、「ドキュメンテーション」や「今日の活動」など、保育の可視的な実践記録も活用して、子どもの様子を伝えている。また年齢別で実施する保護者会においても、子どもの成長や発達の見通しを伝え、「もりんびっく」や「フェスティバル」等の保護者参加の行事、公開保育など、子どもの成長を体感する機会も設けている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	安全な保育提供や確実な業務遂行に向けた取組がさまざまに行われている	
内容②	日々の職員の気づきを安全な保育提供や保育実践の展開、円滑な業務遂行につなげるべく、さまざまな場面で話し合いの機会を設けて認識共有を図るようにしており、職員小集団による、広報・安全・環境などの委員会を設けて、園内の諸課題の解決と改善に取り組み、実践の内容は職員会議で共有されている。また緊急時の確実な対応に備え、嘔吐処理法や心配蘇生術などの実技訓練を行っている。新人職員には、園の基本的な業務を身につけられるよう、覚えるべき事項をリストアップし、先輩職員が伝えてゆく「スタンプラリー」制度も設けられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル③	経営層が啓発や助言のあり方の工夫に努め、現場のエンゲージメントを高めている	
内容③	経営層が、子ども同様に大人も主体性を高め、その発揮が子どものロールモデルともなるとの考えのもとで、職員の自己肯定感も意識したマネジメントに取り組んでいる。園長・主任が職員会議や各階の会議で、「誉める」「怒る」「拍手」などの法人の保育の基盤となる手法や考え方、子どもの姿への洞察や、直近の保育・安全面などについて、事例も交えつつ具体的な啓発や助言を随時行っている。それらの記録からは、現場と課題を共有しながら、指導的視点に偏ることなく、職員の工夫や試行錯誤を称えつつ助言や示唆を伝えていることがうかがえる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりの主体性の尊重を保育における根本に置き、それぞれの意欲や興味を遊びに活かす環境構成の工夫に努めている
	内容	子どもの主体性を尊重しており、自分の興味あるものや遊び場所を自由に選べる環境を整え、集中して遊び込めるようにすることを環境構成の基本とし、子どもの現在の興味とこれから広がるであろう関心を踏まえた準備を大切にしている。乳児・幼児室にはコーナーごとに教具や教材を取り揃え、子どもが個別・小グループで活動ができるように配慮している。発達や理解に応じたさまざまな絵本を用意し、生活の場面ごとに読み聞かせを行い、5歳児は年間を通じて幼年童話を取り扱う時間を設けることで、情緒の安定や集中力・想像力を育む仕組みを整えている。
2	タイトル	日々の生活の中で、年齢の関する子どもたちが一緒に過ごし、ともに関わり合い、ふれ合う中で、さまざまな育ちが促されている
	内容	0・1歳児と2歳以上児の2つのフロアで、異年齢の子どもたちが生活をともにし、さまざまな発達の子どもたちがふれ合い、憧れや優しさ、自信など、多様な心の成長を育んでいる。異年齢保育を実践する中で、伝えようとする様子やまねようとする姿が見えるなど、子どもたち同士の自発的な「見て学ぶ」姿として、日常の保育の中で自然な関わりが持たれている。また好きな環境を選択する自由も保障し、乳幼児が互いの部屋で過ごしたり、園庭や屋上テラスで関わり合うなど、異年齢児のふれ合いが、子どもたちのさまざまな育ちを促している。
3	タイトル	子どもたちの日々の取組をさまざまな行事に反映し、一人ひとりの意欲や主体性が発揮される場となるよう配慮している
	内容	行事は、日々の保育の中で積み上げてきた活動を保護者に披露したいという子どもからの思いや、「見せる」ためだけの行事ではなく、当日に向けて徐々に変化する子どもたちの姿や、試行錯誤を繰り返しながら仲間とともに協力し合うことで得た心の成長を、保護者に届けることも目的の一つとして設定している。子どもたちが自分のやりたいことを実現していく行事として作り上げる過程の中で、職員は子どもとの対話を通して、個々の思いを可能な限り受け入れ、アイデアを形にする支援をすることで、子どもが主体性を発揮できるように配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの体験の幅と社会性を広げ、保育所に期待される社会的役割もさらに発揮すべく、地域との交流の促進に取り組むたいと考えている
	内容	住宅街に立地し、近隣に図書館などの公共施設や目立った商店街などもない中で、近接する高齢者施設との交流が深まりつつあり、その他のアプローチ可能な施設・事業所や周辺住民などとの交流の可能性も探りたいと考えている。また地域への子育て支援機能の強化を開園以来の課題としており、保育所体験等の園を拠点とした企画のほか、地域の子育てや保育・教育の核づくりを目的とした、児童館や小学校などとの連携強化にも取り組む意向である。子どもの体験の広がり・蓄積と園としての社会貢献の両面で、地域との交流の促進に取り組むことを期待したい。
2	タイトル	「ドキュメンテーション」や日々のアプリ配信などの保育の可視的な実践記録を、現場の振り返りや内外への発信に活かす工夫を検討されたい
	内容	写真とコメントで活動の様子を保護者に伝える「ドキュメンテーション」や、毎日配信する「今日の活動」は、保育実践の記録でもある。経営層は組織として保育の理念を深く理解し、思考し続ける姿勢を持ち、個々の主体性を活かして質の向上を図ることや、それを地域に訴求してゆくことも、今後の課題ととらえている。一連の活動報告の媒体を、保護者への発信物としてだけでなく、職員が保育を振り返る素材として、また地域に向けた発信の媒体として活用してゆくことも一考に値すると思われ、情報の蓄積や活用に向けた工夫に期待が寄せられる。
3	タイトル	今後の中・長期的な諸課題を現場とともに計画化し、年度の計画とも関連づけながら取り組んでゆくことを期待したい
	内容	経営層は上述の諸課題のほか、職員の話し合いの場をより充実させるとともに、安全に対する認識をはじめ、保護者との相互理解をより深めることなどにも、今後重点的に取り組むたいと考えている。組織の成熟が進み、職員自己評価でも現場の同僚性の高さがうかがえるが、そうした環境を活かし、これらのさまざまな園の課題を、書式にとらわれず、話し合いのもとで言語化し、計画に定めることも一考されたい。運営の方針とする「トライ＆エラー」の基盤として、年度の事業計画との関連も意識した計画の立案と、組織的な推進に期待が寄せられる。